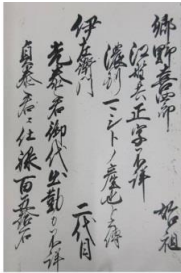


実施状況報告

事業名	内子教育会研究大会		
実施主体名	内子教育会		
日時	平成28年11月4日(金)15:30~17:00		
場所	松乃屋(大会場)		
参加者	教育会OB、現職会員、行政職員、地域住民	参加者数	31 名
内子町誌編集委員で郷土史研究委員会長の芳我明彦先生を講師に招き、「地域史のおもしろさと意義」という演題で講演会を行いました。 「地域史とは、身近な地域の歴史で知る手がかりは、地域に残る考古資料や古文書などである。」ということを利用して話をいただきました。話の途中では、古文書の読み方など、あまりふれることのない内容を楽しく教えていただきました。また、町名の起こりなどから、自分の住んでいる町のことを知る貴重な時間となりました。 今回の講演会で、「歴史の資料を掘り起こすことから、新しいことを知る。」ということと、「今、地域の写真や文献が、やがて歴史を知る資料となるということ。」を教えてください、地域史のおもしろさを感じることができる講演でした。			
地域史 ◇地域史:身近な地域の歴史 ◇地域史を知る手がかり ・考古資料、古文書、古記録、伝承 etc. ◇今日の話の主な材料(出典) ・『大洲旧記』寛政12年(1800) 中居谷村庄屋富永彦三郎著 ・『家要記事』五百木村庄屋高橋氏が書き残した「高橋文書」の一部(江戸後期) 郷ノ谷について - 戸田小伝次の調査 ◇初代 郷野喜四郎 ・美濃国マシト[岐阜市交人]出身(伝) ・郷野か江野か不詳 ・内之子の郷野谷に郷野源八か孫太夫が住んでいたらしい →後人が郷野谷(郷之谷)と命名(伝)  文政8年(1825) 3月9日 ◇八日市と城廻の境の橋が石橋に 「無拠」銀札15匁(2.2万円) ・付近の石灯籠に 「文政8年3月10日」銘  			